

吉野復興大臣の福島県訪問ぶら下がり会見録  
(平成30年1月14日(日) 11:50～11:56 於) 福島県檜葉町)

1. 発言要旨

こんにちは。本日は「Jヴィレッジスポーツフェスタ2018」に12市町村から約170名のお父さんお母さん、そして、子供たちの御参加を頂いて、盛大に開催できました。

サッカーのトップアスリートの皆様方の指導の下で、体を使ったじゃんけん大会、私も参加しましたが、大変面白かったです。そして、子供たちの笑顔をいっぱい見ることができました。

このイベントをきっかけにして12市町村の一体感が高まって、スポーツによる交流が続いていくことを期待しております。

また、今年の夏にはJヴィレッジが一部再開となります。このJヴィレッジの再開は、福島復興のシンボルでもございますので、そういうスポーツに取り組む姿を全国に発信していきたいというふうに思っております。元気な福島の姿を多くの人に知ってもらいたいというふうに考えております。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 大臣御自身は学生時代であったり、今現在とか、スポーツはされたりするんですか。

(答) 今はゴルフを時々やるくらいなんですけど、中学時代はバレーボールの選手でありまして、県大会に出場したということがございます。

私の時代の県大会出場というのは、まず、町の大会で優勝して、そして、郡大会というのがあったんです。ここで勝ち進んで初めて県大会という形なものですから、今で言えば全国大会に出るくらいのハードルが高かった時代でございますので、そういう意味では今もって自慢げに語っております。

(問) すみません。もう1点だけ。スポーツによる交流であったり、地域振興であったり、そのスポーツによってそういった交流する利点と言いますか、いいところというのはどういうところだと。

(答) まず、スポーツは体を鍛えますし、心も鍛えるんですね。そして、今日も皆様御覧になったと思いますが、体を使ったじゃんけん大会なんていうのは、本当に素晴らしいことでありまして、そういう意味の心の扉を開く大きな力があるかと思えます。

そういう意味で、人種を越えてスポーツは絆を深くできる一つの手段であるというふうに思えますので、やっぱりスポーツが一番人間にとっては知らない人同士を仲良くさせる、そういう効果が

あるというふうに私は期待をしておりますので、スポーツを通して12市町村の絆、こういうものをまず形づくっていきたいと思います。今日は子供たち、初めて会った子供たちがたくさんいると思います。そういう子供たちが最初はグー、じゃんけんぽんで負けると、勝った負けたと別な方々に行って、初めて会った方々の交流が、絆ができるというのは、スポーツならではのことかなと、このように思っています。

(問) 今、福島ユナイテッドやいわきFCなど、県内でサッカーがすごく盛んになってきて、そんな中でJヴィレッジが今年一部復活する、こういった県内のサッカーが盛り上がっていることについてどういうふうに、スポーツが盛り上がっている、この件についてはどうですか。

(答) スポーツはある意味でビジネスとして、特に、いわきFCとか福島ユナイテッドはそのこと自体がビジネスを生むという、我々が昔スポーツをやっていた時代のスポーツに対する概念とは異なり、今の概念はすぐビジネスに結び付くという形でサッカーが行われているというふうに思いますね。

そういう意味では特に福島、このJヴィレッジを中心としたところがサッカーのメッカになるわけでありまして。先ほど檜葉の町長もおっしゃっていましたが、震災前はサッカーの全国大会がJヴィレッジで行われていたと。今度は全世界からJヴィレッジに来ていただいて、それだけの宿泊設備も増やしたわけでありまして、サッカーのメッカとして、みんなが、世界の子供たちがJヴィレッジでサッカーしたいというようなところまで持っていければいいな、こんな思いです。

ありがとうございます。

(以 上)